

令和5年1月 No.150  
農業改良普及課だより

愛知県豊田加茂農林水産事務所農業改良普及課

〒471-8566 豊田市元城町4-45 (豊田加茂総合庁舎内)

TEL 0565-32-7509

FAX 0565-35-0416

Eメールアドレス toyotakamo-fukyu@pref.aichi.lg.jp



新年のごあいさつ  
課長 齋藤 哲男

新年あけまして  
おめでとうございます。

日頃は、農業改良普及事業の推進に、格別の御理解と御協力をいただき、厚くお礼申し上げます。昨年、コロナ感染症対策の影響から市場経済の低迷、更には世界情勢の不安定要因から燃油、資材、肥料、飼料など様々な物資の高騰により、かつてないほどに農家経営が圧迫されてきました。将来計画を考える上で非常に困惑した年であったと思われまします。しかし、時流はウイズコロナに傾き、人や経済の動きを活性化させようと色々な施策が打ち出されています。今こそ基本に立ち返り、基盤を固めて前進してもらいたいと思えます。

本年の干支は「癸卯（みずのとう）」です。「冬の門が開き、飛び出る」「これまでの努力が花開き、実り始めること」といった縁起の良い意味が込められているので、今が踏ん張り時です。頑張りましょう。

愛知県知事から新しく認定されました！



農業経営士

林 秀幸 氏  
(豊田市:洋ラン)



楽しいをモットーに、これまで培ってきた経験と人との縁を大切に地域農業の発展に寄与して参ります。

川口 英之 氏  
(豊田市:採卵鶏)



認定いただき、ありがとうございます。今後も仕事に励み、地域に愛される農産物の提供に努めます。

青年農業士

高橋 悟 氏  
(みよし市:果樹)



青年農業士の一員として、地域農業を盛り立てていきたいと思えます。

佐藤 恵嗣 氏  
(豊田市:茶)



同じ青年農業士の皆さんと交流を深め、農業を通じて地域に貢献していきたいです。

農村生活アドバイザー

野田美香子 氏  
(豊田市:水田作)



他の認定者の方と共に、次の世代につなげられる農業になるよう努めたいと思います。

磯村千賀子 氏  
(豊田市:果樹)



農村生活アドバイザーとして活動に参加し、農業の発展と地域活性化に取り組んでいきたいです。

梅村 繭子 氏  
(豊田市:水田作)



農業を通じて地元の方々と地域活性化に向けた取り組みが行えるように頑張ります。

令和4年度に  
新規認定され  
た方々です。

地域農業を牽引するリーダーとして、活躍を御期待申し上げます。



## 普及課管内の動き

### 愛知農業賞表彰式で、ナシ・モモ生産者加藤鐵也氏が受賞

令和4年度愛知農業賞（アグリアワード）表彰式が行われ、豊田市舞木町の加藤鐵也氏が技術改善部門で受賞した。愛知農業賞は、愛知県の農業・農村の振興に尽力し、その功績が他の模範となる人を表彰するものである。

加藤氏は、当時カキ栽培が主体だった猿投地区に平棚を用いたナシ栽培を導入し、ナシ産地として発展させた。また、「愛宕」、「あきづき」といった品種を産地に導入、栽培技術を確認し、産地の形成・振興に尽力したことが評価された。

現在、JAあいち豊田梨部会では両品種の出荷量の割合が50%近くを占めており、中晩生品種主体の産地となっている。



表彰式の様子  
(加藤氏：右中央)

### 赤とんぼ米が食味コンクールで初の入賞、勉強会で栽培者へ報告

管内の特産品である「赤とんぼ米（ミネアサヒSBL）」が、12月2～3日に長野県小諸市で開催された第24回米・食味分析鑑定コンクール：国際大会で、都道府県代表の特別優秀賞を受賞した。赤とんぼ米事務局（JAあいち豊田）は、「豊田・みよし環境保全型農業推進協議会」として6年前から毎年同コンクールに出品を続けてきたが、入賞は初めて。12月7日に開催された栽培者勉強会で受賞を報告し、栽培者からも喜びの声があがった。「赤とんぼ米」は、農薬により激減したといわれる赤とんぼの復活を目指し、環境への負荷が少ない防除方法を取り入れて栽培された特別栽培米。令和4年産は21戸14haで取り組まれた。



勉強会で受賞の報告をする事務局

### ウィンター・プリンセスプロジェクト（シンビジウム展示会）を1月13日（金）～開催

JAあいち豊田花き振興会と愛知県花き温室園芸組合連合会洋らん部会は、令和5年1月13日（金）～1月29日（日）に、コモ・スクエア（豊田市喜多町2-160）で、「ウィンター・プリンセスプロジェクト」と称したシンビジウムの展示会を実施する。

シンビジウムの消費拡大・利用定着を目的とし、入場無料で観賞できる。

展示中は、消費動向を把握するためのアンケート調査を行い、今後の活動に役立てる。



### モモ産地活性化に向けた苗木定植が行われる

豊田市農ライフ創生センターでは、モモ・ナシ産地振興のため、新規参加者が2年間、里親農家の下で研修を受け、就農する研修生に研修生の新規ほ場とするため、モモ苗木の定植が行われた。里親農家を中心として、JAあいち豊田桃部会、梨部会農家、桃・梨専門コース研修生、修了生、関係機関職員が総勢33名参加した。初めに農業改良普及課が植え付け方法を説明し、各班に分かれ4か所のほ場で約150本のモモ苗木が定植された。

今回、定植されたほ場は、5期生が2年間研修を修了した後に、借り受ける予定地である。



植え付け風景